

平成 27 年度 追手門学院中学校・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

学院教育理念「独立自強（自ら努め励む）・社会有為（世のため、人のために尽くす）」を学習・生活・行事・HR・クラブ活動など、すべての教育活動の基軸に据えて、「自己肯定感」と「関係性の力」をキーワードに人間形成教育を実践します。
そして、自主的自立的な精神と確かな個性をもち、同時にまた、他者や社会のことを考え、豊かな社会性を持つ人物の育成を目指します。

2 中期的目標

1 教育理念に基づく「人間形成教育」・「志の教育」の推進

- (1) 教育理念に沿った学年・クラス・クラブの「行動」目標を設定し、その達成に努める。
年度当初に中高全学年・クラス・クラブで教育理念を踏まえた「行動」目標を立てて、実践に努める。
- (2) 「志の教育」（自校教育を含む）・「心の教育」・「キャリア教育」のさらなる充実を図る
私学・追手門学院にとって、建学の精神を踏まえ、教育理念に基づく「志の教育」「心の教育」の実践は使命である。また、「キャリア教育」を推進するための独自シラバスを充実する。
- (3) 「総合学園」として「一貫連携教育」を推進する。
学院と連動して、「一貫連携」を推進する。
中学校では、追手門学院小学校の授業見学や教員交流、施設見学などを通して、追小教育について学び、小中連携の充実化を図る。
高校では「高大」の連携の意義を確認し、育成すべき人物像、目指すべき教育を明確にし、学院として「教育」の流れ、「人」の流れを強化する。特にスポーツコース・表現コミュニケーションコースを軸にして展開する。

2 「学習力」の強化

- (1) 教員の「教育力」向上に取り組む
生徒の学力向上、進路実現のためには、教員の教育力（教科指導力・生活指導力）の向上は必須であり、その結果、生徒の満足度が上がれば、さらに教員の意欲も高まるという好循環が期待される。そのために、個人的・組織的に研修の機会また研修時間を確保して学校全体で教育力の向上に取り組む。
- (2) 生徒の「学力」向上に取り組む
高校では、新設した高校選抜クラス（2015年度より「特選SSクラス」に名称変更）の充実を図り、これを機軸に難関国公立大学・国公立大学進学シフトを強化する。また、I類クラス・II類クラス・スポーツコース・表現コミュニケーションコースの充実を努め、生徒の第一志望進路実現を目指す。
中学校では2013年度に「SSクラス」を新設し、これを機軸に難関国公立大学・国公立大学進学シフトを強化する。
そのために本校独自の3年間・6年間を見通した「合格ストーリー」や「学力向上メソッド（反復徹底学習）」を有効に活用する。

3 特色ある教育の推進と充実

- (1) 「アウトプット教育」のさらなる充実を図る
中学年代においては、「考える力」「伝える力」を涵養することは、将来を豊かに生きる力として大切であり、そのためSSクラスでは「アウトプット講座」、Sクラスでは「コミュニケーション講座」を設け、インプット力と並行してアウトプット力を養成する。
高校年代においても、「思考力」「コミュニケーション力」「独創性」を涵養することは、将来を豊かに生きる力として大切であり、不可欠である。そのために、総合学習の時間に「表現講座」や「社会講座」を設け、インプット力と並行してアウトプット力を養成する。
また、2014年度から「表現コミュニケーションコース」を新設し、演劇教育・舞踊教育を通して、先進的なコミュニケーション教育を行い、これからの時代を豊かに生きる力を養う。
- (2) 「国際教育」の系統化を図り、より充実したプログラムの作成に努める
中学校では、国際教育の学習プログラムを整備し、実践に努める。また、系統立てたプログラムによって生徒の英語コミュニケーション力の向上を図る。
SSクラス中学2年次における「韓国英語村研修」やSSクラス・Sクラスの中学3年次における「ニュージーランド修学旅行」をさらに充実する。
高校では国際教育を通して涵養すべき力を養成するための学習プログラムを整備し、実践に努める。特に日本についての理解を深めること、また世界について学ぶこと、併せて、英語コミュニケーション力の向上を図る。
2014年度に認可された「ユネスコスクール」の取り組みを、他校とも連携を図りつつ、実質的に展開する。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]	学校関係者評価委員会からの意見
<p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友人関係・学校生活（担任指導を含む）の満足度が高い ・また、学習に関する項目も満足度が高い ・国際教育の充実の満足度が向上。 <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友人関係・学校生活（担任指導を含む）の満足度が高い ・学習に関する項目についても高い満足度であった。 ・教育理念に基づく教育への期待度が高い <p>【分析】学校生活や教育活動に対して、全般的に満足度は高い。今後も引き続き、取り組みを充実し、生徒・保護者の期待に応えたい。特に、学習分野の取り組みを、さらに高めることに注力したい。そのために、まず教員が、授業で生徒の学力を伸ばす教育力の向上に努めることが肝要である。 2015年度に短期留学の選択肢を増やしたり、海外の学校との交流の機会を設けるなど、国際教育の取り組みを推進したことにより満足度が高まった。今後もさらなる活性化が必要である。</p>	<p>年間2回、評価委員4名の方と学校関係者評価委員会を開催。 6月27日の第1回は学校目標・重点課題についての意見交換と授業見学、2月27日の第2回は学校評価アンケートをもとに重点課題について、今年度の総括的なご意見をいただいた。主な意見は下記の通りである。</p> <p>【第1回（6月27日）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の授業見学を行ったが、教室環境が整い、全体として落ち着いた授業であった。 ・「授業力向上シート」などを使って教科リーダーが教員の育成に努めてもらうことで、教え方のレベルが統一されるので良いと思う。 ・高大連携も大切にして、追大にも多く進学してほしい。追大への関心も高まっている。 <p>【第2回（2月27日）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方がいつも一生懸命に指導してくれていることにより、友人関係や担任の指導の面で満足度が高いのは嬉しいことである。 ・卒業生による「将来を考える日」の企画は総合学園ならではの取り組みで、子どもたちに夢を持たせる意味でもいい取り組みになっている。 ・着実にレベルが上がってきているので、もっと外部広報を積極的に行ってほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習力の強化	<p>(1) 教員の教育力向上 ア. 個人的取り組み イ. 組織的取り組み ウ. 教員育成部の取り組み</p> <p>(2) 生徒の学力向上 ア. 「学力」向上の取り組み イ. 「学習」システムの整備 ウ. 組織的取り組み</p>	<p>(1) 教員の教育力向上 ア. 教員研修部・学習推進部を中心に「授業アンケート」の活用、模試の振り返りなどを各教科に指示し個人が各自の課題に取り組む。 イ. 予備校研修、入試問題検討会、授業見学、追手門学院小学校での授業見学に加え、クラス経営力向上のための研修や大手前中高の公開授業に参加する。 ウ. 教育アドバイザーを迎え、教科リーダーと連携をとりながら授業見学を実施し、特に若手教員の育成に注力した。</p> <p>(2) 生徒の学力向上 ア. 「学力」向上の指針となる数値目標を全学年で設定し、目標達成のための実践に努める。 イ. 「学力向上メソッド」「合格ストーリー」の具体的活用による学習指導・進路指導の実践。 ウ. 中・高でコース会議を設定し、教科・進路指導の充実を図る。</p>	<p>(1) 教員の教育力向上 ア. 「授業アンケート」(年2回実施)や模試の振り返り(年3回実施)を教科に指示し、その後、教科研究会を実施する。(年3回実施)授業見学週間を設定し、互いの授業見学を実施する。 イ. 予備校研修(年2回)へ各教科5名以上が参加。小学校の授業見学に5名以上が参加。 ウ. 「授業チェックシート」をもとに教育アドバイザーが若手教員を指導。</p> <p>(2) 生徒の学力向上 ア. 模試の結果を教科で共有し、改善を図る。 イ. 「メソッド」を活用した授業を実践・検証を行う。 ウ. 定期的なコース会議、進路検討会議(年3回)を実施する。</p>	<p>(1) 教員の教育力向上 ア. 年3回の教科研究会を実施。学校評価アンケートでは学習指導項目で保護者・在校生の満足度が向上した。今後「学力を伸ばす」授業法についての確立・共有を図り、満足度をさらに高めたい。 イ. 授業力向上を重点テーマとして教員全体で共有し向上に努めた。(予備校研修に41名参加。小学校の授業見学に11名参加。大手前の公開授業に10名参加) 今後は、その成果となる模試の結果をさらに精緻に分析し検証する。他校園との研修の質を高める。 ウ. 若手教員の授業について、実践的な指導を行い、力量を高めることができた。今年度の状況を検証し、さらに改善を図る。</p> <p>(2) 生徒の学力向上 ア. 生徒の第一志望校合格に向けて的確な進路指導が図れ、一定数の合格者を出せた。結果分析を行い、学力定着に向けて、さらに学習指導・進路指導の充実を図る。 イ. メソッドの整備・改良が進んだ。今後は、新たな教育に対応できる授業モデルを構築し、発展させていく。 ウ. 学期ごとにコース会議・進路検討会議を実施できた。今後は、年間を通した定期的な会議の設定を明確にしていく。</p>
2 教育理念に基づく教育	<p>(1) 学院教育理念の実践 ア. 中高各学年・クラブの取り組み イ. 「志の教育」 ウ. 「一貫連携教育」の推進</p>	<p>(1) 学院教育理念の実践 ア. 教育理念に沿った学年・クラス・クラブ「実践」目標を設定し、その達成に努める。 イ. 全校「志」作文コンクールの実施。教員・生徒による「志」に関する校内放送や「第一志望宣言」を実施する。また、本校の自校教育ブックレットを使つての自校教育HRを全校で実施する。 ウ. 教員・生徒とも追大の教学改革の研修を実施する。高大連携によるAP科目の実施。追手門学院小学校長による特別授業を行う。高2対象のこども園への職業体験を実施する。</p>	<p>(1) 学院教育理念の実践 ア. 1学期当初に「実践」目標を一覧表にして、共有化を図る。 イ. 5月28日に表彰式、その後定期的に校内放送で受賞者が作品朗読。全校自校教育HRの実施。高2の3学期に「第一志望宣言」の実施。 ウ. 研修の実施。2学期よりAP科目を内部入学予定者が受講。単位を取得する。小学校長による中1対象の国語の特別授業。</p>	<p>(1) 学院教育理念の実践 ア. 「実践」目標を意識して指導にあたることで学校評価アンケートでの担任に対する満足度が向上した。実践を振り返り、さらに満足度の向上を図る。 イ. 「志の教育」は年を追うにつれて充実している。全校で自校教育HRを実施できた。課題として、中学と高校での系統的な実践シラバスの精査が必要。 ウ. 大学教職員による研修を実施することで大学の取り組みの理解が教員・生徒とも深まった。小学校長の特別授業は予定通り実施。高2対象のこども園への職業体験を初めて実施し、参加生徒の満足度も高かった。(参加者16名)</p>
3 特色ある教育の推進と充実	<p>(1) 特色ある教育の推進 ア. 「新しい学び」のあり方の研究と構築 イ. 「アウトプット教育」「国際教育」の充実 ウ. 「サイエンス教育」「ICT教育」の開発・実践を図る</p> <p>(2) 「スポーツコース」「表現コミュニケーションコース」の充実 ア. スポーツコースの充実 イ. 表現コミュニケーションコースの充実</p>	<p>(1) 特色ある教育の推進 ア. 「未来教育PT会議」において、学校の喫緊の課題の洗い出しと具体的解決を行う。また、学校の将来像の構築に向けて議論を重ねる。 イ. 総合学習や校外で生徒の発表の機会を積極的に設ける。ユネスコスクール認可校として、外部との交流を図る。 ウ. 中学校からサイエンス教育を発信し、高校へとつなげる基盤を構築する。IT機器を使った学習管理システム導入の準備を進める。</p> <p>(2) 「スポーツコース」「表現コミュニケーションコース」の充実 ア. 優秀な指導者のもと、各クラブ全国大会出場を目指す。 イ. 独自シラバスによりコース生の心身の成長を図り、その成果として、高1で「自画像公演」を、高2で「アトリエ公演」を発表する。</p>	<p>(1) 特色ある教育の推進 ア. 学校の将来構想の構築のための定期的な会議を実施する。 イ. 生徒の発表の機会やユネスコスクールとしての活動を推進する。 ウ. 中学での課外の理科教育(クラブ活動)を実施する。学習管理システムの整備を進める。</p> <p>(2) 「スポーツコース」「表現コミュニケーションコース」の充実 ア. スポーツクラスの保護者満足度80%。 イ. 表現コミュニケーションコースの保護者満足度80%。</p>	<p>(1) 特色ある教育の推進 ア. 定期的に会議を設定し、次年度以降に向けた具体的案を提示、実現できた。今後も議論を全体で共有していく。 イ. クエストエデュケーション全国大会出場やユネスコ協会での発表など、「アウトプット教育」「国際教育」の成果がみられた。 ウ. 中学から理科教育推進の基盤ができた。また、学習管理システムの次年度一部実施の準備が整備された。</p> <p>(2) 「スポーツコース」「表現コミュニケーションコース」の充実 ア. スポーツクラスの保護者満足度80%。全国レベルの実力はつけてきている。全国大会への出場を目標とする練習を充実する。また、在校生・保護者との連携を図りながら、進路指導を充実する。 イ. 表現コミュニケーションコースの保護者満足度70%。「アトリエ公演」「自画像公演」は外部の方からも高い評価を受けた。在校生・保護者との連携を図りながら、教育内容・進路指導を充実する。</p>

